月 NEXT STAGE 火 開発 デザイン 水

災害時 水の確保簡単に

海水淡水化装置 マルチ展開

ワイズグローバルビジョン（沖縄県うるま市、柳瀬良奎社長、098・923・1432）は、災害時の水の確保に向けた、海水淡水化装置の販売を積極化している。備蓄スペースや保存期間に限りがあるペットボトルに代えて、逆浸透膜（RO）による小型装置の導入を提案する。装備しておくことで、海や川、雨水や汚水を水源に変えることができるためだ。

海水淡水化装置は利用の幅を広げている（建設機械の洗浄向けキット）

次世代 BUSINESS 防災

ワイズグローバルビジョン

船舶で重宝

ワイズグローバルビジョンは海水淡水化装置や浄水器など、水に関する機器を開発、製造販売するベンチャー企業。沖縄県中部に本社工場を構え国内外に出荷している。製品の強みとして柳瀬社長が強調するのは製品用途の〝マルチさ〟だ。

同社の淡水化装置は、漁船や官公庁の船舶で重宝されてきた。航海や漁の途中で寄港せずに、船の周囲に豊富にある海水で水をまかなえるためだ。

防災分野はもう1本の事業の柱。これまで手軽な浄水装置としてペットボトルで使える家庭用や、4トルタンクに中空糸膜と活性炭フィルターをセットできる事業所向け浄水器を開発、販売してきた。

淡水専用だが、手押しで1分当たり900ミリリットルの浄水をつくれる。2016年の熊本地震では製造が追いつかないほどの受注があった。

高宮城実英製造部長は「公民館に備えるために自治体が採用した実績がある。学校へも導入を広げたい」とさらなる普及を狙う。

軽量コンパクト

加えて、同じく16年には「世界最小クラス」（同社）を掲げた小型海水淡水化装置「MYZ（ミズ）E－40H」を開発した。主に災害や非常時向けに位置付ける装置だ。黒いプラスチック製のトランクケース内部に、水を濾過する筒状のROユニットと加圧機が納まる。

同装置は毎時40リットルの真水を製造。淡水の浄水なら能力が2倍に高まる。水道法の水質基準を満たし、水道が止まっても周囲の水を水源にして生活用水を確保できる。100トルの家庭用コンセントで稼働する。

累計50台ほどを販売。災害時向けではホテルや老人ホーム、自治体が導入している。沖縄のリゾートホテルでは、大型装置に加えて小型の同製品を追加導入した。

その理由はコンパクトで持ち運びやすく、保管スペースも抑えられる点だ。重さ27キログラムで1人でも上げ下ろしできる。同社は淡水化能力が毎時1500リットルまでの大型装置もそろえる。小型化でもニーズを捉えた形だ。

東南アで展開

製品のマルチな利用分野はさらに幅を広げている。東南アジアや太平洋の島しょ国では水道環境が悪い地域の日常の生活用水を供給する設備として展開する。フィリピンでは、梱包材メーカーのカネパッケージ（埼玉県入間市）と連携して普及を目指している。17年からは建設機械などの洗浄用としての国内展開にも乗り出した。

水の確保は非常時に限らず、生活の質に大きく関わる。その確保手段を広げるツールとして、同社はさらなる浸透を図る。

（那覇支局長・三苫能徳）

小型の海水淡水化装置「E－40H」の内部。逆浸透膜（RO）ユニットと電動の加圧機が納められている